

わたしの ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第27号 2016/6

特集 昆虫を飼ってみよう!



特集

昆虫を飼っ

昆虫を飼育して観察すると、い
今回の特集では、野外でつかまえた昆虫をうまく飼うた

昆虫飼育の心得

基本が大切!!

ここで説明するのは、昆虫飼育の基本中の基本です。基本のマスターこそが昆虫飼育の王道なのです。

まず名前を調べる【同定する】

昆虫は種類によって、食べるエサやすみかが違います。間違ったエサを与えれば、お腹をすかせて死んでしまいますし、すみかが合わなければ弱ってしまいます。そうならないために、昆虫を飼育する前には必ず図鑑で名前を調べ、何を食べているか、どんなところで、どんなふうにくらしているか、必ずチェックしてください。インターネットを使って調べる事もできますが、間違った情報も多いので、できるだけ図鑑を使うようにしましょう。

また、エサが手に入らないなど、飼育を続けることがむずかしい昆虫だとわかったら、必ずつかまえた場所に逃がしましょう。



昆虫図鑑の一例

エサを用意する

エサを手に入れる事は、昆虫を飼う上で最も大切で、最初にしてはならない事です。昆虫ゼリーや野菜などお店で買えるものもあれば、草や木の葉、生きた昆虫など野外で探さなくてはならないものもあり、飼育する昆虫によって様々です。虫の名前がわからず、エサもはっきりしない場合は、何種類か候補のエサをいれて、食べたエサを続けて与えてください。



野菜など(ナス・ニンジン・リンゴ)

伊丹市昆虫館で使っているエサの一例

飼育ケースの中を虫にあわせてアレンジする

飼育する昆虫の種類や数にあわせて、大きさや形のあった飼育ケースを選びます。そして、その昆虫が本来生息している場所の環境をイメージして、できるかぎり飼育ケースの中に再現してみてください。まずは、ケースの底に飼う虫にあわせて、土、砂、クヌギマットなどを敷きつめて「地面」を作りましょう。つぎに、虫の足場となる止まり木やかくれ場所、エサ場などをセットします。よく跳ねる虫など、飼育ケースに高さが必要な場合は、飼育ケースを縦に置いて使ってもよいでしょう。



市販されている飼育ケース
様々なサイズのものがあります。



プラスチックのカップ
小さな虫や1匹ずつ分けて飼う時に
便利。フタに針などで空気穴をあけると
蒸れにくくなります。

様子は毎日確認し、お世話をしよう

飼育ケース内の様子はできるだけ毎日確認し、必要に応じてエサの交換、ケース内の掃除、霧吹きなどのお世話を行いましょう。毎日、記録をつけるのもおすすめです。

そのほかのポイント

- ◎窓際など、直射日光が当たる場所には絶対にケースを置かないようにしましょう。急激にケース内の温度が上がって、あっという間に死んでしまいます。
- ◎ケンカをする昆虫は、同じケースに何匹も入れないようにしましょう。野外では負けた虫は逃げられますが、ケース内では逃げ場がないので、どちらかが死ぬまでケンカをしてしまいます。
- ◎チョウやトンボなど空を飛んで生活する昆虫は飼育に向きません。飼育ケースなどの狭い場所に閉じ込めると、ハネがぼろぼろになって死んでしまいます。
- ◎一度飼いはじめた昆虫は、最後まで責任をもって飼育しましょう。どうしても飼い続ける事ができない場合は、つかまえた場所に逃がすか、標本にしましょう。

てみよう!

るんな発見や驚きがあります!

めのコツや、いたこん流の飼育テクニックを伝授します。



コオロギ・バッタの飼育

ここからは、伊丹市昆虫館で実際に行っている、昆虫の飼育方法を紹介します。

コオロギ類の飼育

コオロギの仲間は、とても飼いやく飼育初心者にもオススメです!

見た目はちょっと地味ですが、オスはとても良い声で鳴き、耳でも飼育を楽しむ事ができます。涼しくて湿った場所が好きな昆虫が多いので、飼育ケースは風通しのよい日陰に置き、土が乾いてきたら霧吹きで湿らせましょう。

<この飼育法で飼える代表的な虫>



スズムシ



エンマコオロギ

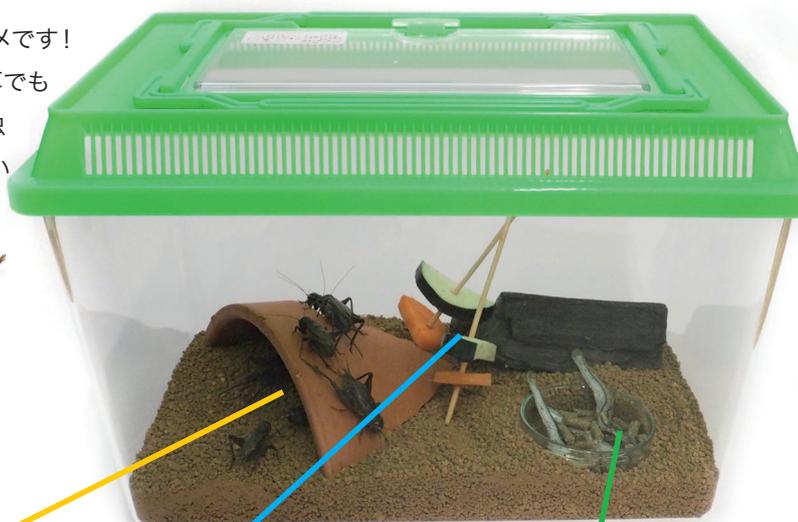


ミツカドコオロギ



ツツレサセコオロギ

かくれ場所(植木鉢のかけらなど)
コオロギは物陰に入り込む習性があるので、かくれたいような場所をケース内に作ってください。



野菜

伊丹市昆虫館では、ナスとニンジン
を主に使います。キュウリはすぐにドロドロに腐ってしまうので、あまり使いません。

動物性のエサ

コオロギは雑食性なので、野菜のほかに、にぼしやラビットフードなどを与えると、共食いを防ぐことができます。

バッタ・キリギリスの飼育

コオロギの飼いやくとはほぼ同じですが、飼育ケースを縦置きにして本物の草を入れるところが違います。これは、バッタやキリギリスの仲間は跳ねる力が強く、地面より草にとまっている方が落ち着くからです。これらの草はバッタ類の主食なので、しおれてきたらすぐに新しいものと交換してください。また、キリギリス類は肉食性が強いので共食いを防ぐために、にぼしなどの動物性のエサを多めに与えてください。卵を産ませたい場合は、湿った土を5cmくらいの深さまで入れた容器(タッパーなど)をケース内に置けば、産卵場所になります。

<この飼育法で飼える代表的な虫>



オンブバッタ



トノサマバッタ



クビキリギリス



キリギリス

イネ科などの草

水を入れたびんなどにススキやエノコログサなどをさします。

リンゴとニンジン
バッタやキリギリスも好みます。

にぼしやラビットフード



カブトムシ・クワガタムシの飼育

カブトムシ・クワガタムシ（以下カブ・クワ）は、昆虫飼育の花形です。最近は昆虫ゼリーが簡単に手に入るので、成虫であれば飼育も簡単です。ただしオスどうしはケンカするので、1つのケースの中に入れるのはオス・メス1ペアまでにしましょう。どうしても数ペアを飼う場合は、大きなケースを使い、ゼリーや止まり木を多めに入れてください。ケース内が乾き過ぎると弱ってしまうので、霧吹きはこまめに行ってください。夜行性の種類が多いので、観察は昼ではなく夜がオススメです。繁殖させる場合は、そのカブ・クワの産卵にあった昆虫マット（腐葉土）や朽ち木を入れ、卵を産ませるためのケース作りが必要です。



カブトムシ



ノコギリクワガタ



ミヤマクワガタ

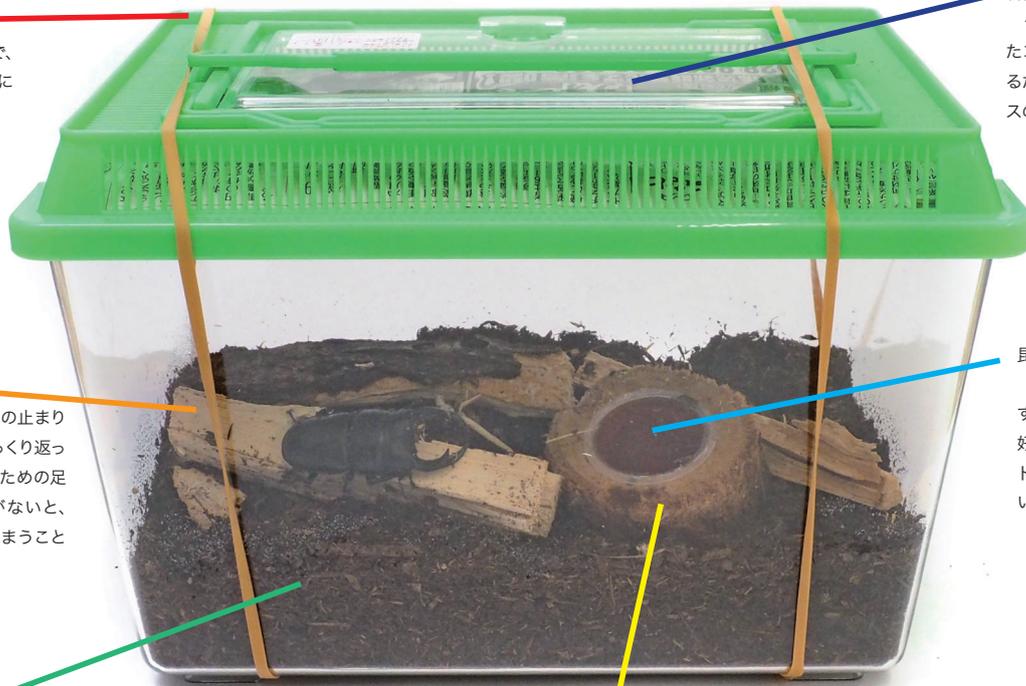


コクワガタ

<この飼育法で飼える代表的な虫>

輪ゴム
カブ・クワは力が強いので、フタを開けて逃げないように輪ゴムで押さえます。

新聞紙（ストッキングでも可）
ケース内が乾くのを防ぎ、またコバエが入ってこないようにするため、新聞紙などをフタとケースの間にはさみます。



止まり木
カブ・クワがつかまるための止まり木を入れます。ケース内でひっくり返ってしまった時に、おきあがるための足場にもなります（止まり木がないと、ひっくり返ったまま死んでしまうこともあります）。

昆虫ゼリー
エサとしては昆虫ゼリーがおすすです。バナナやリンゴも好物ですが、腐りにくく昆虫マットが汚れにくいゼリーが最も使いやすいです。

昆虫マット
キノコ栽培に用いたホダ木などを粉碎してフレーク状にしたもので、ペットショップなどで買うことができます。よく湿らせて5cmくらいの深さでケースにしきつめてください。屋間にもぐって休んだり、メスが産卵する場所になります。

えさ台
昆虫ゼリーは、ペットショップなどで販売されているゼリー用のえさ台を使うことで、ゼリーの周りに足場ができ、のぼりやすくなります。またゼリーがひっくり返らないので衛生的です。

基本の次のステップへ！

- ◎エサを変えてみたりレイアウトを変えてみたり、自分なりにいろいろ工夫をしてみましょう。
- ◎成虫がうまく飼えるようになったら、次は産卵に挑戦してみよう。うまく飼育できれば、卵→幼虫→蛹→成虫という昆虫の一生と、脱皮や蛹化、羽化シーンが観察できるかもしれません。
- ◎イモムシや毛虫などの幼虫をつかまえ、育てて成虫にするのもオススメ。最近は、「イモムシハンドブック」などわかりやすい幼虫図鑑があるので、種名やエサ植物が調べやすくなりました。
- ◎ペットショップ等で販売している外国のカブ・クワも、日本のカブ・クワと同じ方法で飼育できます。ただし、飼う場合は絶対に逃がしたり捨てたりしないでください。寿命が来て死んでしまうまで、しっかりと大切に飼いましょう。
- ◎昆虫の飼育方法でわからないことがあったら、いつでも伊丹市昆虫館に相談してください。

いたこんはみなさんの昆虫飼育を全力で応援いたします！

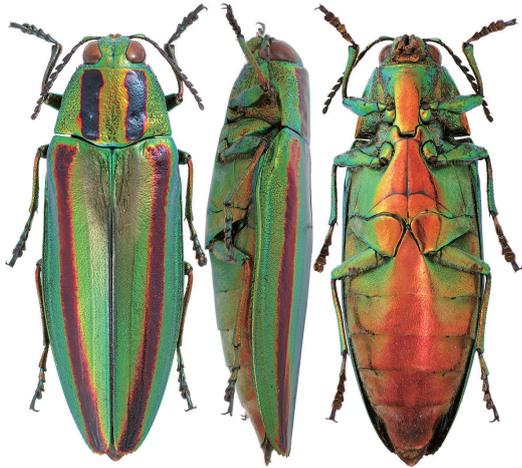
（奥山清市・野本康太）



カブトムシの羽化シーン

むしムシ虫眼鏡

Vol.22 国宝にされたきらめく昆虫



昆虫の中にはきらびやかな金属光沢を身にまとうものが出て、私たちの目を楽ませてくれます。中でもタマムシは翡翠（ひすい：エメラルドグリーンに近い色をした宝石）のようなかがや

<タマムシ（別名：ヤマトタマムシ）>

学名：*Chrysochroa fulgidissima*

分類：コウチュウ目タマムシ科

体長：24 - 40mm

きと、さびのにじみ出たような渋い赤色の縦縞をそなえ、一度目にしてしまうと忘れられないほどの美しさです。法隆寺に所蔵される国宝の玉虫厨子（たまむしのずし）には、装飾として本種の翅が使われていました。タマムシの美しさは古代の日本人の心を惹きつけたということでしょう。

タマムシは身近なところにも居て、伊丹市内にも生息する場所があります。7月～8月のよく晴れた日に大きなエノキのまわりを飛び本種を見かけることがあります。今年の夏は捕虫網を持って、この宝石昆虫を探しに出かけてはいかがでしょうか。（長島聖大）

亜熱帯の温室から

Vol.22 ヒスイカズラ

ヒスイカズラは大型のつる性植物で、フィリピン諸島の熱帯雨林に分布しています。当館のチョウ温室にこの植物を植えたのが



いつだったのか、詳細な記録は残っていませんが、2005年前後だったようです。それからつるが伸びて株は大きくなるものの、花は咲かないままでした。植栽からおおよそ8年後の2013年、とうとう待ち望んでいた花が咲いたの



でした。この年は4月～5月に1回だけ開花しましたが、翌年からは冬から初夏にかけて3回開花するようになりました。植えられてから10年以上が経過した2016年、体力が充実したのでしょうか、なんと2月～5月まで花が途切れることなく咲き続けました。花は咲くとわずか1日で落ちてしまうのですが、その落ちた花の中のをのぞくと、あまい蜜がたっぷりつまっています。この蜜は花の奥の方にあり、そこまで口吻が届くツマベニチョウなどの大型のチョウでないといえなさそうです。

名前のお通り翡翠（ひすい）色をした花はなんともいえない美しさです、冬から初夏にかけて開花しますので、ぜひ見にお越しください。（田中良尚）

<ヒスイカズラ>

学名：*Strongylodon macrobotrys*

分類：マメ科

【さいきんの

カシノナガキクイムシを伊丹市内で初確認

コナラやミズナラなど、ブナ科の木が突然に枯れてしまう「ナラ枯れ」という現象をご存じでしょうか？これはコウチュウ目ナガキクイムシ科のカシノナガキクイムシ (*Platypus quercivorus*) という昆虫が、生きた木の中に侵入することによって引き起こされます。カシノナガキクイムシは6～8月にブナ科の木の幹にオスが飛んできて、その中に食い入ります。木に穿入(せんにゅう)したオスは、メスを呼び寄せるにおい(フェロモン)を出し、さらに多数の本種がその木に飛来します。メスの前胸背面には菌のうとよばれる器官があって、その中にたくわえられている「ナラ菌 (*Raffaelea quercivora*)」と呼ばれる病原体が放出されることにより、被害木



カシノナガキクイムシ(上:オス、下:メス)

の内部はナラ菌に冒されます。ナラ菌に冒された木は、全てではありませんがある程度の割合で枯れてしまいます。メスの産んだ卵からかえった幼虫は、木材中にあけた穴(孔通)に生えた菌類を食べて成長します。

ナラ枯れは日本国内で近年に急激な拡がりをみせています。当館の調査により、伊丹市内でもカシノナガキクイムシが確認されてしまいました。2015年6月24日に、緑ヶ丘公園に植えられたアベマキに穿入しようとしている本種を発見したことが初めての記録です。2015年7月5日には昆陽池公園のアベマキ、クヌギ、コナラの幹上でも同様に確認しました。このうち、緑ヶ丘公園のアベマキ1株はその年の秋に枯死してしまいましたが、他の木はいまのところ枯れていないようです。いずれにしても、今後もカシノナガキクイムシとナラ枯れの動向に注意を払いたいと思います。(長島聖大)

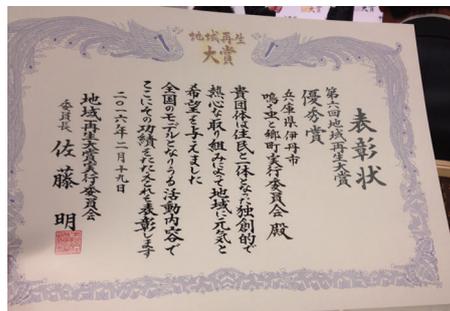


カシノナガキクイムシに穿入されたアベマキの幹。食い入られた時に出来た穴のまわりは、黒い樹液の染みができる

第6回地域再生大賞優秀賞受賞！

地域再生大賞は共同通信社と加盟新聞45紙が地域の再生・活性化のモデルとなる活動を続ける団体を表彰し、紙面やインターネットを通して多角的に報道し、団体や地域社会にエールを送ることを目的としています(第6回2015年度地域再生大賞表彰式シンポジウム配付資料より抜粋)。

2015年度の第6回地域再生大賞優秀賞に、当館もかかわっている「鳴く虫と郷町」を開催する鳴く虫と郷町実行委員会が選ばれました。



各地から選ばれた50の団体の活動は、地域の生活振興・産業・伝統工芸・観光・商業・芸術・文化・自然環境・教育など多種多様でした。その中で

も「鳴く虫と郷町」は、市民だけでなく公共施設や企業団体、行政などさまざまな立場の人々が多数かかわっている点で、全国でも希な取り組みであることが評価されたようです。

東京での表彰式に出席し、各地の活動団体の取り組み報告を聞くとも共通していることがありました。地域の魅力となる風習・文化・地域資源を知り、それらを見つける人、関係性をつなぐ人・つなぐコトを大切にしていることです。また、連携することで資源をうまく活用し、発信していくことが活動の継続につながっているようでした。

今年の第11回鳴く虫と郷町は2016年9月9日から17日の9日間おこなわれます。伊丹郷町館や中心市街地の商店、街路樹に約15種3,000匹の秋の鳴く虫の声を楽しむイベントです。第6回地域再生大賞優秀賞を受賞した「鳴く虫と郷町」をぜひ見にお越しください。(角正美雪)

飼育室から

むしパン新発売！



伊丹市昆虫館ミュージアムショップにて「むしパン」の販売を始めました。虫が入っていると蒸してあるとかではなく、「ちょうちょ」や「てんとうむし」、「いもむし」の形をした可愛い菓子パンと総菜パンです。伊丹市や尼崎市でパン屋を営まれるサンブレッドさんのご協力のもと、春休みやゴールデンウィーク、6月4日(ムシの日)など人出が予想される土日などに特別販売を行っています。館内での食事はできませんが、外へ出たおやつに、昆虫館のお土産に、チャンスがありましたら、ぜひお試しください。(野本康太)

昆虫館生まれのヘラクレスが羽化！



伊丹市昆虫館ではカブトやクワガタ、バツヤやカマキリの仲間などたくさんの昆虫を飼育し展示しています。中でもヘラクレスオオカブトはとても人気があります。昆虫館で繁殖させ卵から育てていたヘラクレスが、最近立派な成虫へと羽化しました。体長16cm、体重90gのオスでした。記録を見ると2014年3月に卵からふ化した幼虫が、約2年後の2016年3月に成虫となったことがわかりました。日本のカブトムシは卵から成虫になるまで約10ヶ月、成虫の寿命は1～2ヶ月です。このヘラクレスはどのくらい生きるのでしょうか？現在、生態展示室の看板昆虫として活躍中です。(野本康太)

変態ワークショップを開催しました

企画展「だっぴ〜ひと皮むけてん〜」のイベントとして、大阪市立自然史博物館で人気の子どもワークショップ「びっくり・変態! むしムシ親子」をやりたい! そう考えて、このワークショップの企画・運営を行ったNPO法人大阪自然史センターに依頼したところ、トントン拍子に話がすすみ、2016年4月9日(土)にいたこんでの開催が実現しました。

大阪市立自然史博物館からは主任学芸員の初宿(しやけ)さん、大阪自然史センターからスタッフの山中さん、山下さんに来ていただき、3回の開催で合わせて44名の子どもたちが参加してくれました。「変態!」と声があがるたびに笑いがおこる楽しい雰囲気の中で、昆虫の成長と完全・不完全変態について学ぶことができる、とっても素敵なワークショップになりました。今後も、他の

施設や団体との連携企画をどんどんやっていこうと思っています。(奥山清市)



昆虫はかせ役の初宿学芸員と子どもたち

クビアカツヤカミキリを見かけたら知らせてね!

クビアカツヤカミキリは中国大陸や朝鮮半島などアジア東部に広く分布する、体長3cm前後のカミキリムシです。もともと日本にはいませんでしたが、2012年に愛知県で初めて、そして翌年には埼玉県で見つかりました。2015年には東京都、群馬県、大阪府、徳島県でも見つっています。このカミキリムシ、日本にいて何が問題なのかというと、幼虫が私たちに身近な樹木の中(材部)を食べてしまい、弱らせたり、枯らしてしまう可能性があるのです。

その樹木とは、サクラ、ウメ、モモ、カキ、ヤナギなど、みなさんが名前を知っているものばかりではありませんか? 近隣で見つっていることから、いつ伊丹市内で見つってもおかしくない状態です。全体的に黒くツヤツヤしていて、クビの部分(前胸背板)が赤いカミキリムシを見つけたら、すぐに昆虫館に知らせてください。

(田中良尚)



クビアカツヤカミキリ (画像: 徳島県立博物館)

企画展「きらめく昆虫」

写真集「きらめく甲虫」(丸山宗利著、幻冬舎)を手にした企画展担当者は、それからしばらく、世界のきらめく甲虫たちのあざやかな色彩の世界におどろき、あこがれる日々を過ごしました。今回の企画展では、「きらめく甲虫」の著者丸山宗利さん(九州大学総合研究博物館)の協力を得て、写真集に登場した写真とその標本にくわえ、世界のきらめく昆虫を一堂に会する機会に恵まれました。我々を魅了するこのきらめきの世界をご堪能ください。(長島聖大)



イスをリニューアル

映像ホールや学習室などで、たくさんのお客様にご利用いただいていたイスが26年ぶりに新しくなりました。従来に比べ重さが半分になり動かしやすく、スタイリッシュな青い椅子です。



では座りごごちの方は? ぜひお試しください。(野本康太)

もよおしあんない

7月

- 23(土) セミの羽化観察会(予約制)
- 24(日) 昆虫標本の作り方講座(予約制)

8月

- 6(土) こやいけクモの観察会(予約制)
- 6(土) 昆虫標本の作り方講座(予約制)
- 7(日) トークショー(長島聖大)
「カメムシの研究はたのしい」
- 11(祝) トークショー(野本康太)
「ミツバチのひみつ」
- 13(土) トークショー(奥山清市)
「虫とにらめっこ!」
- 14(日) 伊丹市昆虫館友の会出展
「キーホルダーづくり」
- 14(日) トークショー(角正美雪)
「テントウムシの暮らし」
- 20(土) トークショー(坂本昇)
「虫を食べるはなし」
- 21(日) 夏休み むしむし相談室
- 27(土) トークショー(田中良尚)
「カブトムシとクワガタムシ」
- 28(日) 虫のおりがみワークショップ
「頭にかぶるカブトムシ」(予約制)

企画展

4/20～7/4 きらめく昆虫

プチ展示

4/27～6/20 伊丹のホタル
6/22～8/31 昆虫採集&標本作製道具

特別展

7/13～8/31 いたこんパラダイス ～虫の国から2016～

【9月から休館します】

伊丹市昆虫館は、平成28年9月1日から設備改修工事のため長期休館いたします。平成29年3月31日まで休館する予定ですが、工事の内容により期間が変更になる可能性もあります。その場合は、決まり次第ホームページ等で皆さまにお知らせいたします。ご迷惑をおかけしますが、ご協力のほどお願い申し上げます。(奥山清市)

行事の申込方法

くわしい内容は...

申し込むには...

- ・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降にご案内します。
*広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでもご覧になれます。
- ・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約1ヶ月～2週間前までに
お問い合わせください。

- ・FAX、Eメール(携帯電話不可)、往復はがきに、行事の名前、参加する全ての方の氏名(ふりがな)年齢(学年)、住所、電話番号を記入し、受付期間内にお送り下さい。
- ・申込多数の場合は抽選となります。
- ・FAXの宛先番号 072-785-2306
- ・Eメールアドレス ge7n-skmt@asahi-net.or.jp (携帯メール不可)
- ・往復はがきの宛先住所 〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館

編集スタッフより

9月からの工事でいたこんは休館しますが、休み中もいろいろイベントを計画中なのでホームページをチェックしてね!(おくやま) 柏書房出版、伊丹市昆虫館編「むしのうんこ」本が累計11,000冊を突破しました。(かくまさ)